

ショック・ドクトリン

写真の堤未果さんによる『100分 de 名著』から、ナオミ・クライン著『ショック・ドクトリン』をすこし紹介したい。

『ショック・ドクトリン』の原書が、世に出てから16年。この間、世界ではデジタル・テクノロジーが猛スピードで進化し、私たちの日常はますます仮想空間と一体化し、ショック・ドクトリンの手法もまた、よりスピードを上げ、見えにくく、巧妙になってきています。主権者として社会を作っていくはずの私たちが、このスピードに引きずられ、大量の情報に飲まれたままでいれば、立ち止まる暇もなくつけこまれ、弱い者がまず踏みつけにされるでしょう。そんな社会を子どもたちに残したくないからこそ、この本を一人でも多くの日本人に読んでもらいたい……そう強く思っていたところに今回の「100分 de 名著」のお話を頂いたことに、不思議な運命の力を感じました。

現実の中で起こった事象を点として見るのではなく、点と点をつないで線にする。そして視野を世界全体に広げることで、その線を面に広げる。そこに時間軸の歴史的視点を入れて立体的に見た時に、初めて浮かび上がってくるものは、私たちに立ち止まらせ、深く考えさせ、人間として確かにしてくれます。

ただし一つ警告しておく、ナオミ・クラインの本の特徴の一つの特徴は、非常に詳細な事実が書き込まれているために、かなりのボリュームがあり、情報量も膨大なことです。そのため、教科書を読むような読み方をすると、途中で嫌になって挫折してしまうかもしれません。コツは、細かなディテールを記憶しようとしなくていいこと。ある出来事について気になった時は、それが別の時代に別の国でも起きていることを理解して、一つの大きなパターンを捉えるようにしてみてください。現象を、時間・空間の縦軸と横軸を通して見ることで、「ビッグピクチャー」が見えてきて、理解できるからです。歴史の本、ジャーナリズムの本、としてではなく、「思考のトレーニング」をするつもりで読むことをお勧めします。

起きていることを多角的に、俯瞰して見るスキルを身につけると、目に映る世界が本当に変わります。少ない情報でも、未来が見えるようになると、主権者としての自分の立ち位置がクリアになっていくのを実感できるでしょう。

危機に便乗して過激な新自由主義を強引にねじ込むこの戦略を、クラインは「ショック・ドクトリン」と名づけます。そしてそこから過去に遡り、フリードマンとその一派がこの手法を使って、いかに世界の多くの場所で、国家や国民の資産を略奪してきたか、事実を丹念に拾い上げながら、語られなかった「もう一つの歴史」を明るみに出したのでした。

(2023年6月7日)

